

マアナゴ

生態的特徴等

【生態】

日本沿岸のほぼ全域に分布し、水深 300m 以浅の砂泥域を生息域とする。

産卵場は沖ノ島島南方沖の九州・パラオ海嶺付近とされ、葉型仔魚（レプトセファルス幼生）は黒潮によって各地の沿岸域に輸送される。葉型仔魚は「のれそれ」と呼ばれ、沿岸漁業の漁獲対象となる。その後、静穏域で変態して底生生活に移行し、沖合等に分散・移動する。

幼魚はヨコエビ類を、成長後は魚類を主に捕食する。常磐海域には雄はほとんど分布しないとされ、1歳で全長 30～55cm、2歳で 35～80cm、3歳で 50～80cm 程度となる。常磐海域では 13 歳魚が確認されている。

【漁法と盛期】

茨城県では主に底曳網（沖底・小底）で漁獲される。葉型仔魚は船曳網で漁獲される。

【利用】

煮アナゴ、天ぷら、かば焼きなどの原料として利用されている。



資源水準は低位、動向は減少傾向

（漁獲量）漁獲量は、H6年からH26年までは概ね 100～200 トンで安定しており、H27年に 296 トンまで増加した。その後は減少が続いており、R7年は 21 トンまで減少している（図1）。

（水準と動向）資源水準は、県内で漁獲割合の高い沖底及び小底 5t 以上の漁獲量から計算した CPUE (kg/隻・日) から判断した。水準は「低位」、動向は直近5年間の CPUE の傾向から「減少」と判断した（図2）。

水準



動向

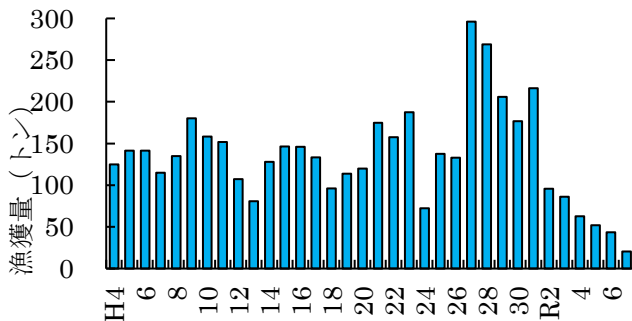


図1 茨城県のマアナゴ漁獲量 (水試システム、属地)

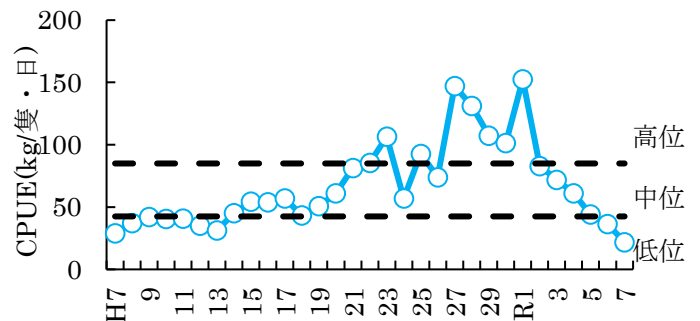


図2 茨城県のマアナゴ CPUE (水試システム、沖底+小底 5t 以上、属地)

【全国の漁獲動向】※アナゴ類としての集計

- ・島根県が漁獲量 1 位で、2 位は長崎県、3 位は宮城県。(R6 農統)

評価期間：令和 7 年 1 月～12 月 更新日：令和 8 年 3 月 11 日

引用：水産研究・教育機構水産資源研究所底魚資源部、宮城県水産技術総合センター、福島県水産資源研究所 (2021) マアナゴ太平洋北部 (宮城県～福島県)。令和 3 (2021) 年度資源評価調査報告書、水産庁・水産研究・教育機構、東京 8pp、https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/trends_2021_19_r.pdf。
石田敏則・山廻邊昭文・後藤勝彌・片山知史・望岡典隆 (2003) 常磐海域におけるマアナゴについて。福島水試研報、11、65-79。